

令和4年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTを活用した資料提示や双方向的学習ができた。
- ・積極的に社会の出来事を取り上げ、生徒の興味・関心を涵養できた。
- ・ワークを使った反復演習や小テストによる基礎・基本の定着を徹底できた。

(2) 課題

- ・授業で資料をもとに話し合い、考察させる必要があった。
- ・少人数グループでの調べ学習を実践する機会が少なかった。
- ・単元ごとの課題の設定をより工夫する必要があった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	標準スコアが全国平均より下回っている。	/	/
第2学年	前年度より標準スコアが上昇しているが、全国平均より下回っている。	標準スコアが全国平均より下回っている。	/
第3学年	標準スコアが前年度並びに全国平均より下回っている。	前年度より標準スコアが上昇しているが、全国平均より下回っている。	標準スコアが全国平均より下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が目標値を下回っている。特に、知識の定着や資料の読み取りに課題が見られる。	校内平均正答率が目標値を下回っている。特に、各領域において資料を読み取り表現することに課題が見られる。	校内平均正答率が目標値を下回っている。特に、事象の関連性に着目し自分の言葉で表現することに課題が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
今年度の平均正答率が目標値よりも下回っている。特に、世界の姿や日本の姿の基本的な知識の定着に課題が見られる。	今年度の平均正答率が目標値よりも下回っている。特に、雨温図や統計資料などのデータをもとに、考察し表現することに課題が見られる。	今年度の平均正答率が目標値よりも下回っている。特に、複数の図を比較し自分なりの言葉で表現することに課題が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
今年度の平均正答率が目標値よりも下回っている。特に、日本の各県の統計について、資料をもとに考察することに課題が見られる。	今年度の平均正答率が目標値よりも下回っている。特に、日本の貿易について、複数の資料をもとに考察することに課題が見られる。	今年度の平均正答率が目標値よりも下回っている。特に、江戸時代の産業について、その特色について理解することに課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校で学習する地名・語句が覚えられていない生徒がいるので、授業ごとに確認し、基礎・基本の定着を図る。また、基本的な図表の読み方を授業の中で確認する。	資料を考察し表現する力を育成するため、資料をもとに問いを投げかけ、意見を交換しながら考察する学習を行う。	複数の資料を比較し考察する力を育成するため、地理ならば複数の場所、歴史ならば別の時代を比較しまとめ発表する学習を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業の中で世界地図・日本地図を使う作業を増やす。また、時差や緯度経度などを読み取る演習を行う。	資料の読み取りを行う際は、どこに着目するかを説明し、言葉で表現できるようワークシート等に読み取った結果を記入させる。	授業で自身の言葉で表現させる際、他の意見を参考にし、自身の意見を改善することを徹底する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地図や資料をもとに推考する力を養成するため、地図やグラフの提示を積極的に行う。	毎授業、本時のめあて（学習課題）を提示し、授業内では複数の資料を比較する作業を行い、まとめの段階でめあてを達成できているかを確認する。	ICT 機器を活用することで、生徒が興味関心を持ち、主体的に取り組む授業の実践を目指す。